

皆様お世話になります。

日頃からご愛顧いただきありがとうございます。

今年の夏は酷暑となり岐阜県は毎年のように注目の的となり、

沢山の心配の声をかけていただきました。ありがとうございました。

農作物も心配しましたが、なんとか無事に今年も酒造りが始められそうです。

酷暑が続き、熟成酒ひやおろしも心配しておりましたが、良い出来となりました。

皆様、ひやおろしお楽しみください。

アメブロやっています!
<http://ameblo.jp/hanamikura/>



花美蔵っ子に聞く! 酒蔵における女人禁制



皆さん、こんにちは。今回の「花美蔵通信」は少し趣向を変えまして、酒蔵と日本古来の考え方と「女人禁制」について迫っていきましょう。

女人禁制という、最近では相撲の世界においてもメディアで話題になりましたよね。一体どのような考え方なんですか?



調べてみると、女人禁制は相撲以外にも鍛冶屋、酒屋...と実に様々な分野に根付いた考え方であることが分かります。

例えば相撲は、もともとは神様に一番強い人を奉納する儀式。だから力では男性に太刀打ちできない女性は、対象外とされていたのです。

なるほど。ではお酒の世界についてはなぜなのでしょう?



お酒は日本の主食である米を、最高の技術で造り上げ神様に奉納するという意味があります。現在は大部分が機械化されていますが、造る工程も昔は全て手作業かつ力仕事だったため、男の役割とされていたんです。

女人禁制って、神様に深く関係した思想なんですね。



その通り。今でこそ様々な宗教がありますが、昔の日本はほぼ神道が占めていて、神は男性のものと信じられてきました。現代で考えると男女差別のように思えますが、このように男性と女性を分けることで国を統制していた時代もあったのです。

実際酒蔵に関しても先代の女性に聞くと、蔵に入ったことがない方ばかりなんです。だから現在の酒蔵開放は、きっと信じられないのではないのでしょうか。

でもどうして、昔は神事において女性は禁止されていたのですか?

それは、神に対する汚(けが)れが「死」と「血」だとされていたからです。それを裏付けるように、今でも近く亡くなった方がいる人や女性特有の日の方は、鳥居をくぐらない、神棚に白い布をかけるなどのしきたりが残っています。

またお祭りは、本来神様に喜んでいただき、五穀豊穰、家内安全、無病息災を祈って行われてきたものです。中には激しいものもあり、死人が出たり、生贄として神様に捧げるものもあったという説もありますから、男の人がメインだったのかもしれないね。



一口に女人禁制といっても、様々な考え方に基いているんですね。

色々な説があるので捉え方は十人十色ですし、確実にいえるものはありません。ですが白扇酒造の商品もこうした歴史の中で培われてきたもの。伝統製法の名に恥じぬよう、より良い商品をご提供できるよう日々努力してまいります。

